

教育カウンセラー沖縄

〒902-0061 沖縄県那覇市寄宮 1-8-48 那覇教育会館 4階 電話 098-851-5257 代表：川上 啓一

1：夏期講座終了！

今年も8月5日（日）の長田清先生の講座を皮切りに、12日（日）まで、計10個の講座と会員の実践発表、そして勝連啓介先生の講演会などの充実した教育カウンセリング夏期講座が開催されました。どの講座も盛況で、延べ550名の受講者と共に学びの時間を共有させていただきました。ありがとうございました。

会場変更の連絡の不行き届きや会場が狭く窮屈な思いをさせてしまったこと、資料の印刷不明瞭なものがありましたことなど、お詫び申し上げます。今後の反省点として生かしていきたいと思っています。会員の皆様のご協力のもと、夏期講座を開催することができましたこと、この場をお借りして感謝を申し上げます。

- ①「子どもの精神障害」 長田 清（長田クリニック院長）
- ・子どもの精神障害は成長する中での正常なのか、異常なのか、難しいと思いました。病名がつくことで安心する・・・個人をみて、何に困っているのか、寄り添って対応したいです。
 - ・“完全な解決を求めない” “できる対処法を考える” 支援者としてできる事を考えていきたいと思った。
 - ・一人で悩まずに、複数、チームで問題解決へつなげる事、医療のみにたよらず、生活環境改善や話を丁寧に聞くことが大切だと分かった。
- ②「解決志向アプローチの基礎」 長田 清（長田クリニック院長）
- ・子どもの良さを見つけては子どもに伝える。この繰り返しが大切だという事。子どもに自己肯定感が見に付くように言葉がけを意識しながら今後の教育活動を実践していかなければと今日の講座で学びました。
 - ・「体の良いこと探し」という質問は、おもしろいと思いました。長所とは違い、体に限定することで自分の内側にも目を向ける。
 - ・3つのワークが理論と繋がったことです。また、ワークの説明で長田先生が自己開示してくれたエピソードにユーモアがあると同時に、ジーンと感じ入ることがあり、人柄に引き付けられました。ありがとうございました。
- ③「教育カウンセラーに必修のカウンセリング理論」 渡久地 政順（沖縄キリスト教短期大学名誉教授）
- ・渡久地先生の教育カウンセリングの理論の受講は3回目です。自分の臨床を重ねる程に、「死ぬまで Student である」のお言葉が身に染みます。自分の姿勢をふり返る機会になっています。改めて「傾聴」を大事にしたいと思いました。成長し続けるカウンセラーでありたいと思いました。
 - ・「カウンセラーの任務は、クライアントの気づいていないことを先に気づいて、解釈すること。」何を気づかせたらよいかを「考える」必要があるということが分かりました。

④「児童虐待の理解と対応」

本村 真（琉球大学人文社会学部教授）

- ・支援者自身の「トラウマ」や「プチトラウマ」に気づけたことが大きな収穫。
- ・テーマが重い分、受講しながら辛い部分もあったが、プチトラ、試し行動、支援者の無力感への対応など、心得ておく必要な知識が学べた。
- ・プチトラのスイッチが入ってしまったら負の行動が出てしまうが、これまで築いた信頼関係が壊れたわけではない！落ち込まない！
- ・変わるエネルギーを持っていない子もいる。変化を求めても効果がない。自己肯定感を高める。

⑤「教育現場で活かす交流分析」

野原 弘（沖縄T Aセンター所長）

- ・「自律性」について学びました。自分で望んで選択したように」今までも意識していましたが、その重要性がはっきり分かりました。今後は肯定的に「自分の洗濯だ！」と考えられるようにしたいと思います。前提や限界を知る（意識する）ことも学びました。
- ・「I am OK, You are OK」自分も相手もOK。沖縄の人は、カウンセラーに向いている？（笑）。とても腑に落ちました。生徒達に、お互いを認め合い尊重し合うことがいかに大切かということを改めて伝えたいと思いました。

⑥「医療と教育現場との連携」

野村 れいか（沖縄国際大学総合文化部講師）

- ・「その子がどんな体験をし、どんな思いでその行動を示しているのか想像し、仮説を立て、関わり方を考えていく」という言葉が印象に残りました。
- ・医療機関はゴールではない。医療機関も正解を持っているわけではない。試行錯誤するプロセスが大事。共に寄り添いながら頑張っていきたい。
- ・「大人が先にあきらめてはいけない」「診断はできなくても援助はできる」目からウロコです！
- ・話に引き込まれました。事例を交えてわかりやすく、野村先生の暖かなお人柄に元気をもらいました。校内研修などで他の方にも聴いてもらいたい！と思いました。

⑦「子どもを育む学級・集団づくり」

島尻 千賀子（小学校教諭）

- ・セミの抜け殻の性別の見分け方。台風の目の場所。ゲーム、手遊び。絵本の読み聞かせのときの持ち方。その他いろいろいっっぱい勉強になってあつという間に時間が過ぎました。クラスの子供達に楽しい時間、感性そだててあげられるようにしたい！！
- ・教師は子どもたちの歴史の一部にいるということ。「知る」ことは、「感じる」ことの半分も重要ではない。今の子どもたち（自分の子どもふくめて・・・）感じる事が少なくなっている気がする。とても先生は大切なこと、重要なことをおっしゃっていると感じた。

⑧「ビジョントレーニング」

大城 弘子（ウエルネス松尾目の学校トレーナー）

- ・視覚とは、視力だけでなく様々な機能があり、発達にも関わっているということ。落ち着きがなかったり、手先が不器用だったり、姿勢が悪かったりする子も、もしかしたら目の問題があるのかもしれないということにも気を配りたいと思いました。
- ・気になる子どもの実態と、今日の先生のお話が結びついて大変わかりやすかったです。視覚がうまくできていないからこそ、様々な症状が出ていることなど、よくわかりました。今日、教えていただいたビジョントレーニングを少しずつ取り入れながらやっていきたいです。

